

平成三十一年度

群馬県立女子大学 文学部 国文学科

転入学及び編入学試験

専門科目 試験問題

試験時間

11時00分～12時30分

問題一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

六条前斎院ときこえさせたまひける宮の御所に、イいみじき懸り^キを植ゑられたりけり。一三月のはじめつからけ^ウその道の上達部、殿上人、あまた参りて、鞠^マつかうまつりけるに、夕べになりて、公卿の座に雪をかはらけ^{注3}に盛りて、主殿司して据ゑ置かれけるを、雪とも見分かざりけるにや、「鞠の座に食物をすすめらるること、そのため^エしまれなり。いかやうにか」とあやしみ申して、おのおの出でられにけり。
ある有識^{注4}、のちにこのことを聞きて、「いみじくこそ雪をば出されにけれ。カさることあるらむとも知らで、近く寄りて見る人のなかりける、ゆゆしき^ケ恥なり。また、鞠の時、雪を出さるる、定まれる式なれども^{注5}、ことさらにかはらけに盛られたりけるは、人の心をはかりて御覽ぜむとの御しわざなり」とぞ申しける。
宮の御高名、鞠足^{注6}の不覚にてぞありける。

(『十訓抄』より)

注1 懸り … 蹴鞠の場の四隅に植えた木。桜、柳、松、楓、梅などが植えられた。

注2 鞠 … 蹴鞠。

注3 かはらけ … 素焼きの器。

注4 有識 … 知識・学力のある人。

注5 定まれる式なれども … 定まった形式があることであるが。通例は硯箱の蓋に盛って雪をふるまった。

注6 鞠足 … 蹴り手の人々。

問一

(1) 二重傍線部「雪とも見分かざりけるにや」を例にならって品詞分解しなさい。

【例】

形容動詞	名詞	助詞	動詞	助動詞・尊敬	補助動詞	助動詞・推量・連体形	助動詞・伝聞	助詞
・連用形			・未然形	・連用形	・終止形	(撥音便無表記)	・連体形	
にはかに	宮	へ	渡ら	せ	たまふ	べか	なる	を

(2) 二重傍線部「雪とも見分かざりけるにや」を現代語訳しなさい。

問二 傍線部イ「三月のはじめつかた」について、次の各問に答えなさい。

(1) 「三月」の異名を漢字二字で記しなさい。

(2) 「三月のはじめつかた」は、日本の古典文学における季節感としていつごろの季節に当たるか。次の選択肢のうち最も適するものを選び、記号で答えなさい。

- A 真冬 B 春先 C 春の盛り D 夏の盛り E 秋の初め

問三 傍線部ア「いみじき」、エ「ためし」、キ「知らで」、ク「ゆゆしき」をそれぞれ現代語訳しなさい。

問四 傍線部ウ「その道の上達部、殿上人」とあるが、「その道の」とはここではどのような意味か。説明しなさい。

問五 傍線部オ「あやしみ申して」とあるが、どういうことか。説明しなさい。

問六 傍線部カ「さること」の内容を説明しなさい。

問七 傍線部ケ「人の心をはかりて御覽ぜむとの御しわざ」を分かりやすく現代語訳しなさい。

問題二

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

大音寺前とはそもく、いかなる処なるぞ。いふまでもなく売色を業とするもの、余を享くるを辱とせざる人の群り住める俗なる境なり。されば縦令よび声ばかりにもせよ、自然派横行すると聞ゆる今の文壇の作家の一人として、この作者がその物語の世界をこゝに扱みたるも別段不思議なることなからむ。唯、不思議なるは、この境に出没する人物のゾラ、イブゼン等の写し慣れ、所謂自然派の極力摸倣する、人の形したる畜類ならで、吾人と共に笑ひ共に哭すべきまことの人間なることなり。われは作者が捕へ来りたる原材とその現じ出したる詩趣とを較べ見て、此人の筆の下には、灰を撒きて花を開かする手段あるを知り得たり。われは縦令世の人に〔ア〕崇拝の嘲を受けんまでも、此人にまことの詩人といふ称をおくることを惜しまざるなり。且個人的特色ある人物を写すは、或る類型の人物を写すより難く、或る境遇の milieu (イ) に於ける個人を写すは、ひとり立ちて特色ある個人を写すより更に難し。〔イ〕出で、復た大音寺前なしともいふべきまで、彼地の「ロカアル、コロリツト」(2)を描写して何の窘迫せる筆痕をも止めざるこの作者は、まことに獲易からざる才女なるかな。

注 (1) Milieu ……環境

(2) ロカアル、コロリツト……地方色

問一 この文章は『めさまし草』に掲載された合評「三人冗語」の一部である。幸田露伴、斎藤緑雨と共に作者であるのは誰か。作者名を記しなさい。

問二 空欄(ア)に入る作者名を記しなさい。

問三 この文章で批評対象となった作品の冒頭は「廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お齒ぐる溝に燈火うつる三階の騒ぎも手に取る如く、明暮れなしの車の往来にはかり知られぬ全盛をうらなひて、大音寺前と名は仏くさけれど、さりとて陽気の町と住みたる人の申き、」と始まる。空欄(イ)に入る作品名を記しなさい。

問四 この文章は批評対象となった作品の作者をどのように評価しているのか。簡潔に説明しなさい。

問題三

次の各項目について具体例をあげて説明しなさい。

問一 ズーズー弁

問二 母音連続の回避

問三 ナリ活用とタリ活用

問四 語種

問五 学習リソース

問題四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、設問の都合により、一部返り点を省略した箇所がある。

項王軍壁^①垓下^②、兵少食尽。漢軍及諸侯兵圍^③之數重。夜聞^④漢軍四面皆楚歌^⑤、項王乃大驚^⑥曰、漢皆已得^⑦楚乎。是何楚人之多也。項王則夜起、飲^⑧帳中^⑨。有^⑩美人^⑪一名虞、常幸^⑫從^⑬。駿馬名騅、常騎^⑭之。於^⑮是項王乃悲歌慷慨、自為^⑯詩曰、力拔^⑰山兮氣蓋^⑱世、時不^⑲利兮騅不^⑳逝。騅不^㉑逝兮可^㉒奈何^㉓、虞兮虞兮奈若何。歌數闋、美人和^㉔之。

(注) 「項王」…項籍。字、羽。秦王子を殺し、自立して楚の霸王となる。「壁」…塞を作って立て籠もる。「垓下」…地名。「美人」…妃嬪の称号。「慷慨」…心がたかぶる。

問一 傍線部(1)について、なぜそう感じたのか、理由を説明しなさい。

問二 傍線部(2)を正確に現代語訳しなさい。

問三 傍線部(3)「幸從」とはどういう意味か。簡潔に答えなさい。

問四 傍線部(4)を書き下し文に改めなさい(歴史的仮名遣い)。

問五 傍線部(5)の意味を答えなさい。